

### 講演③ 日本の両生類の現状 ～東京都レッドデータ改定を例に～ 福山欣司(カエル探偵団世話人)

私は学生時代からカエル類の生態や行動を研究して来ました。その経験を生かして、現在はカエル探偵団の世話人として日本の両生類の保全活動に関わる一方、両生類の専門家として環境省や東京都の両生類レッドリストを選定する委員などを務めています。この講演では、日本全体の両生類の現状について簡単にまとめた後、2010年に改定された東京都版レッドデータブックに基づいて東京都の両生類の現状について詳しく紹介します。

#### ①日本全体の傾向

日本の在来両生類の数は、亜種まで含めると、サンショウウオ目 24、カエル目 41、合計 65 になります。固有種率（日本のみで生息する種の比率）はたいへん高く、サンショウウオ目では 95%、カエル目では 84%になります。

2006年に改定された環境省の両生類レッドリストには、21種が絶滅危惧種として記載されています。すなわち、日本の両生類のおよそ 3 分の 1 は絶滅の恐れがあります。目別の絶滅危惧種率は、サンショウウオ目で 46%、カエル目で 24%です。サンショウウオ目の絶滅危惧種率が高い理由は、カエル目と比較すると、生息域が狭く孤立している種が多いからだと考えられます。また、カエル目では絶滅危惧種のほとんどは琉球列島に生息する種です。

#### ②東京都の両生類の現状

東京都では 4 つの地域（区部、北多摩、南多摩、西多摩）ごとにレッドリスト評価を行いました。その結果、東京都に生息する 15 種の在来両生類（サンショウウオ目 4 種、カエル目 11 種）のうち、絶滅危惧 IA と判定されたのは、北多摩のトウキョウサンショウウオ (*Hynobius tokyoensis*)、区部のアカハライモリ (*Cynops pyrrhogaster*)、区部のトウキョウダルマガエル (*Rana porosa porosa*)、西多摩以外の地区のツチガエル (*Rana rugosa*)、区部のシュレーゲルアオガエル (*Rhacophorus schlegelii*) でした。また、絶滅危惧 IB はサンショウウオ類 3 種 6 地域、カエル類 4 種 7 地域でした。

#### ③東京都における両生類のレッドリストの特徴

東京都の両生類の生息環境は悪化傾向にあります。特に都内の水田面積はこの 10 年間でおよそ 3 分の 1 にまで激減し、休耕田化も進みました。こうした水田環境の減少と改変は、水田をおもな生息地とする両生類に悪影響をもたらし、10 年前と比較すると絶滅危惧種の数が増えました。全国では普通種であるニホンアマガエルでさえ東京都では絶滅危惧種に指定せざるを得ないほど深刻な状況です。